

## ポピュラー音楽に生きるキャラクター —ことばとキャラクターの結びつきから—

西澤 萌希

### 1. はじめに—「キャラクター」とは

本稿の目的は、ポピュラー音楽の歌詞を対象に、ことばとキャラクターの結びつきを観察、考察することである。

振舞い方や話し方のもととなる人物像「キャラクター」の性質について定延（2011）は次のように言及している。「キャラ変わり」と言うことがあるように、「キャラクター」は状況に応じて変わるものである。この点で、根本的に変わらない「人格」と異なる。しかし、キャラ変わった様を他者に見られると見られた方だけでなく見た方も気まずいように、キャラクターは変わらないことが期待されている。この点で、相手に応じて自在に変わる「スタイル」と異なる。つまり基本的に変わらないことを期待されているが、状況に応じて変わりうるものであり、変化するか否かという点で「スタイル」と「人格」の中間的な性質を有する、そのような人物像を「キャラクター」というのである。本稿でもこの定義で「キャラクター」を用いる。

以上の定義の「キャラクター」について、『クレヨンしんちゃん』（臼井儀人の漫画）に登場する幼稚園児「風間トオル」（以下、風間君）を例に見てみよう。風間君は友達にはタメ口、先生には敬語で話す。この違いは「スタイル」の範囲である。また、風間君はストーリーを通して、一貫して真面目な人物として描かれている。これは「人格」の範囲である。一方で風間君は、家にいるときなどプライベートな場面では、少女向けアニメが好きなオタクとしての一面も持っている。しかしそのことが友達に知られると気まずいため、必死に隠す。つまり、状況に応じて変わるが、変わらないことが期待されており、これこそが「キャラクター」の範囲である。

本稿では、このような「キャラクター」とことばの結びつきを考察する。

## 2. ことばと結びつくキャラクタ

本稿ではポピュラー音楽の歌詞におけることばとキャラクタの結びつきを、定延（2011）が指摘する3つの観点「ラベルづけられたキャラクタ」「表現キャラクタ」「発話キャラクタ」を利用して考察する。

「ラベルづけられたキャラクタ」とは、夏目漱石の『坊っちゃん』の主人公を指す「坊っちゃん」が《お山の大将》キャラクタを指すように、ラベル（「坊っちゃん」）で示されるキャラクタ（《お山の大将》）である。

「表現キャラクタ」は、「たたずむ」が《大人》キャラクタを暗示するように、動作を指し示すことば（「たたずむ」）によって表される、動作の行い手としてのキャラクタ（《大人》）である。

そして「発話キャラクタ」は、役割語（老人語等など）をはじめとした発話から浮かび上がる発話主としてのキャラクタ（《老人》など）である。

## 3. 先行研究と本研究の位置付け

### 3.1 先行研究

ことばとキャラクタの結びつきに関する研究は盛んに行われてきた。その多くは小説やマンガ、アニメ等の発話（いわゆるセリフ）を主な観察対象とする研究（秋月 2014, 渡邊 2016 等）、テレビ番組での発話を観察対象とする研究（河野 2016 等）である。加えて、インターネット上の書き込みを観察対象とする先行研究も見られる（定延 2007, 定延・張 2007 等）。

### 3.2 本研究の位置付け

本研究では、これまで考察対象とされることがほとんどなかったポピュラー音楽の歌詞を観察対象とする。小説、マンガ、テレビ番組、インターネット等において多様な人物が交替しながら話者となるのに対し、ポピュラー音楽の歌詞では一貫して同じ人物が話者を担う場合がほとんどである<sup>(1)</sup>。また、絵などの視覚的情報等がキャラクタの理解に及ぼす影響が大きいという点でも、マンガやアニメ、テレビ番組等とは異なる<sup>(2)</sup>。そのような性質を持つにも拘わらず、ポピュラー音楽の歌詞においても、キャラクタがことばによって表されている。しかし、ことばとキャラクタの結

びつきを考察した研究は少ない。

Dodd (2016) はポピュラー音楽の歌詞に注目して、役割語的な視点から自称詞の使用を考察している。どのようなテーマの楽曲でどの自称詞が用いられているか、という観点で考察しており、一部、本稿の視点と重なる。しかし、Dodd (2016) は特に性差表現の観点から考察しているが、本稿はことばとキャラクタの結びつきを性差表現以外の点にも注目し、多角的に考察するものである。

#### 4. 使用データ

調査対象データは、「年間 CD シングルランキング」(オリコン株式会社)、「JOYSOUND 年間ランキング」(株式会社エクシング)、「レコチョクランキング」(株式会社レコチョク) の上位楽曲である。本稿において以上をデータとして使用するのには、「ポピュラー音楽」を調査するにあたってその題材が「ポピュラー」であることをある程度保障するためである。そもそも「ポピュラー音楽」を調査対象とするのは、数ある音楽の中でより多くの人に触れられているものであり、それは日常で 사용되는ことばと必ずしも一致しないが、キャラクタとことばの結びつきを含む現代の言語文化、現象を研究するにあたって無視できない対象であると考えためである。

歌詞は「うたまっぷ.com」(有限会社インターライズ)を参考にする。

#### 5. 歌詞に見られるキャラクタ

##### 5.1 歌詞に見られる「ラベルづけられたキャラクタ」

本節では、ポピュラー音楽の歌詞における「ラベルづけられたキャラクタ」(定延 2011) がどのように表れるかを観察し、次の 2 点を指摘する。

I. キャラクタのラベルとして 3 つのパターンがある。

II. ラベルづけは比喻を利用し、キャラクタの性質をより分かりやすい形で表現する機能を有する。

##### 5.1.1 ラベルづけのパターン

ポピュラー音楽の歌詞におけるラベルづけられたキャラクタを観察し、



次の3つのパターンを見出した。

- i. 人物に関するラベル
- ii. 生物に関するラベル
- iii. 生物以外のものに関するラベル

#### i. 人物に関するラベル

- (1) 今日も明日（あす）も 踏み出してラストシンデレラ 不器用な愛  
を掲げながら ずっと駆け抜けてく 強く 強く

（ケラケラ「スターラブレイション」, ふるっぺ/森さん/Litz<sup>(\*)</sup>）

- (2) 「じゃあね」って言ってからまだ 5分もたってないのに すぐに  
会いたくてもう一度 oh baby ギュッとしてほしくて boy, miss  
you (西野カナ「Dear…」, Kana Nishino)

(1)の歌詞では、「シンデレラ」というラベルが話者に用いられている。同じ歌詞中では「泣きそうに涙をこらえてる」「大丈夫が口癖」「誤解される性格だからまたココロが疲れる」というように、苦しみながら生きる姿が描かれている。このような日々の苦しみに耐えて強く「駆け抜けてく」姿が童話の登場人物「シンデレラ」と重ねられている。つまり(1)では「シンデレラ」というラベルによって、日常の苦しさにも耐えつつ生きる女性の姿が暗示されており、《強く生きる女性》キャラクターが表れている。

(2)の歌詞では、ラベル「baby」「boy」が恋愛相手を示す。“baby”の意味として〈恋人〉があるが、これは〈赤ちゃん〉〈年少者〉という中心的な意味と比べて周辺的な意味である。(2)では、〈恋人〉として年少ではない人物をラベルづけしつつも、中心的な意味〈年少者〉が作用し、若い人物が暗示されている。また“boy”は〈少年〉という意味であり、ラベル「boy」が「baby」と同様に、若い男性のキャラクターを示すラベルとして機能している。よって(2)では、「baby」「boy」という二つのラベルを近くに配置することによって、《恋愛相手の若い男性》キャラクターを表すように機能している。

#### ii. 生物に関するラベル

- (3) Butterfly 今日は今までの どんな君より 美しい 白い羽ではば  
たいてく 幸せと共に (木村カエラ「Butterfly」, 木村カエラ)

- (4) 友達でも恋人でもない中間地点で 収穫の日を夢見てる 青いフルーツ  
あと一歩が踏み出せないせいで じれったい



のなんのって

(宇多田ヒカル「Flavor Of Life」, 宇多田ヒカル)

ウェディングソングで有名な(3)では、ラベル「Butterfly」で「君」のキャラクタを表している。「Buttefly」というラベルは、結婚を迎える「君」の《自由で美しい人物》キャラクタを表すように機能している。

(4)は恋愛歌であり、話者自身を「青いフルーツ」でラベルづけしている。恋愛における話者の立場は「友達でも恋人でもない中間地点」である。また「あと一步が踏み出せない」とあるように話者は恋愛関係に踏み出すことができずにいる人物である。ここではその《恋愛面で未熟な人物》キャラクタを、フルーツにおいて一般に未熟な状態を指す「青いフルーツ」が表している。

### iii. 生物以外のものに関するラベル

(5) この度はこんな私を選んでくれてどうもありがとうございます。 ご使用の前にこの取扱説明書をよく読んで ずっと正しく優しく扱ってね。  
一点物につき返品交換は受け付けません。 ご了承ください。

(西野カナ「トリセツ」, Kana Nishino)

(5)は恋愛歌であり、恋人としての「私」を「一点物」とラベルづけすることによって、《貴重で大切な恋人》キャラクタを演出している。

以上より、次の性質Iが示された。

I. キャラクタのラベルとして3つのパターンがある。

- i. 人物に関するラベル (「シンデレラ」「baby」「boy」)
- ii. 生物に関するラベル (「butterfly」「青いフルーツ」)
- iii. 生物以外のものに関するラベル (「一点物」)

#### 5.1.2 ラベルづけの機能

ラベル i は、ラベルづけられたキャラクタ自身が持っている性質をより分かりやすく示すために、その性質を持つことが周知の事実であるラベルで表したものである。例えば(1)は、有名な童話の主人公「シンデレラ」が強く生きる女性であるという周知の事実を利用し、話者が(精神的に)強いということを表している。

ラベル ii は、キャラクタ自身が持っている性質を示すために、その性質をより分かりやすい形で、すなわち視覚的に表すものでラベルづけをしようとしたものである。例えば、(3)の自由、美しいという性質は、「butterfly」

が羽ばたく姿を見て，そこから解釈される。

ラベルⅢはいわゆる擬物化を利用したものである。(5)では，話者自身を「一点物」に擬物化することによって，「取扱説明書」という，本来人間に対しては適応されない設定のもとで歌詞を描くことに成功している。それにより，「返品交換は受け付けません」などのように，本来生物に対しては使いづらい表現を用いることが可能になり，キャラクターがもつ性質（貴重さ，大切さ）が効果的に表されている。

以上のように，ラベルづけはキャラクターの性質をより分かりやすい形で表現する機能を有する。また，その機能は《強く生きる女性》を「シンデレラ」とするように比喩を利用したものであり，次の性質Ⅱが認められる。

Ⅱ．ラベルづけは比喩を利用し，キャラクターの性質をより分かりやすい形で表現する機能を有する。

## 5.2 歌詞に見られる「表現キャラクター」

本節では，ポピュラー音楽の歌詞における表現キャラクターを観察し，その性質として次の3点を指摘する。

Ⅲ．動詞句に限らず，名詞句によっても表現キャラクターが暗示される。

Ⅳ．動作を指示することばの修飾部が表現キャラクターを暗示する。

Ⅴ．動作を指示することばがラベルと連動する。

### 5.2.1 名詞句が暗示する表現キャラクター

ポピュラー音楽の歌詞で表現キャラクターが示される例は，次のように挙げられる。

(6) 唇を薄く開いて「もう平気よ」とつぶやいたあのひと

(EXILE「Lovers Again」，松尾潔)

(7) 君の前前前世から僕は 君を探しはじめたよ そのぶきっちょな笑い方をめがけて やってきたんだよ

(RADWIMPS「前前前世 (movie ver.)」，野田洋次郎)

(8) 君の前前前世から僕は 君を探しはじめたよ その騒がしい声と涙をめがけ やってきたんだよ

(RADWIMPS「前前前世 (movie ver.)」，野田洋次郎)

(6)では，「唇を薄く開いて（中略）つぶやいた」という動詞句によって，《クール》キャラクターが暗示されている。定延（2011）では表現キャラク

タが動作を指示することばで表されると述べていたが、その分析で例として挙げられていたのは動詞（句）のみであった。そこで念のため指摘しておく、表現キャラクタを暗示することばは必ずしも動詞（句）とは限らない。

(7)(8)について、(7)では「ぶきっちょな笑い方」という名詞句、(8)では「騒がしい声と涙」という名詞句によって、「君」の《お転婆》キャラクタが示される。つまり、名詞句によっても表現キャラクタが暗示されるということであり、次の性質Ⅲが示された。

Ⅲ. 動詞句に限らず、名詞句によっても表現キャラクタが暗示される。

### 5.2.2 修飾部が暗示する表現キャラクタ

先に挙げた(7)(8)の「ぶきっちょな笑い方」「騒がしい声と涙」がキャラクタを暗示することばたりえるのは、名詞修飾部「ぶきっちょな」「騒がしい」によるところが大きい。

(9) 目を閉じれば 聞こえてくる 君のコロコロした 笑い声

(浦島太郎 (桐谷健太)「海の声」, 篠原誠)

(10) 一人じゃ 明日見失うから 派手に 叫ぶのさ Keep the faith 敵  
無し 不可能も無し とばすぜ 燃え上がれ本能

(KAT-TUN「Keep the faith」, 氷室京介／SPIN)

(9)は、(7)と同様に動作「笑う」を指示する名詞句が出現する歌詞である。同じ「笑う」という動作を指示する名詞句であるが、名詞修飾部が異なれば、暗示される表現キャラクタも異なる。

表現キャラクタを暗示することばにおいて修飾部が効果的に働く例は、動詞句の場合にも見られる。例えば(10)では、動作「叫ぶ」が「派手に」で修飾されることによって、《大胆不敵》なキャラクタが強調されている。

以上より、表現キャラクタの性質として次のことが指摘された。

Ⅳ. 動作を指示することばの修飾部が表現キャラクタを暗示する。

### 5.2.3 ラベルと連動して暗示する表現キャラクタ

加えてポピュラー音楽の歌詞では、動作を指示することばがラベルと連動することによって、表現キャラクタが暗示されている。

(3) Butterfly 今日は今までの どんな君より 美しい 白い羽では  
ばたいてく 幸せと共に (木村カエラ「Butterfly」, 木村カエラ)



(11) 君の叫びで 僕は目覚める 今宵の闇へ 君をいざなう Monster

(嵐「Monster」, UNiTe/Sean-D)

(12) 私のお墓の前で 泣かないでください そこに私はいません 眠って  
なんかいません 千の風に 千の風になって あの大きな空を  
吹きわたっています (秋川雅史「千の風になって」, 不詳)

(13) 秋には光になって 畑にふりそそぐ 冬はダイヤのように きらめく  
雪になる (秋川雅史「千の風になって」, 不詳)

まず(3)(11)は、「ii. 生物に関するラベル」が出現する歌詞である。(3)の「はばたいてく」は蝶々ならではの動作であり、《自由で美しい人物》キャラクターの暗示に効果的に働く。(11)は「Monster」でラベルづけられている歌詞であり、動詞「いざなう」が用いられている。「いざなう」は雅語的な表現であり、一般的な表現ではない。一般的でない、馴染みがないことは、不気味さ、怪しさを想起させうる。つまり、(11)では「いざなう」があえて用いられることによって、《不気味で怪しい人物》キャラクターが暗示されている。

続く(12)(13)では、「iii. 生物以外のものに関するラベル」が出現する。(12)の「私」は、「風」でラベルづけられており、「風」ならではの動き「吹きわたって」によって、《生命力にあふれた人物》キャラクターが暗示されている。また、同曲の歌詞である(13)では、「光」ならではの表現「ふりそそぐ」、「雪」ならではの表現「きらめく」によって、(12)と同様に《生命力にあふれた人物》キャラクターが暗示されている。

以上より、表現キャラクターが持つ性質について、次の性質が示唆された。

V. 動作を指示することばがラベルと連動する。

### 5.3 歌詞に見られる「発話キャラクター」

本節では、ポピュラー音楽の歌詞に見られる発話キャラクターを観察する。そして、以下の3点を指摘する。

VI. 発話キャラクターと思考キャラクターが混在しうる。

VII. 《格上》と《格下》の中間的な「格」、すなわち《同等》の発話キャラクターが見られる。

VIII. 《異人》タイプは少なく、ほとんどが《私たち》タイプの発話キャラクターである<sup>(4)</sup>。

### 5.3.1 発話キャラクタと思考キャラクタ

定延(2011)は、《私たち》タイプの発話キャラクタの特徴を記述する尺度として、「品」「格」「性」「年」の4つを提案している<sup>(5)</sup>。ポピュラー音楽の歌詞ではこれら4つの尺度で発話動作主を観察することが可能である。すなわち、発話キャラクタが観察可能である。

(14) この時代のチャンピオンさあ 掴め No.1 ため息よ歓声に変わ  
れ！！ オオー

(15) 俺達の情熱で 明日を飾りにいこうぜ

(16) ヤバイ, ギミックで ぶっ飛んだモーション マジ熱いから始まる衝動

(Kis-My-Ft2「Everybody Go」, 上中丈弥 (THE イナズマ戦隊))

以上はすべて、同一の楽曲の歌詞である。4つの尺度について順番に観察するのだが、筆者は特に「品」が複雑な尺度に思えるため、先に説明を加えよう。「品」について、定延(2011)では次のように述べられている。

「品」とは何よりも巷の人間に想定される概念である。当該社会が課す文化的制約から逸脱せず、その中におとなしく、慎み深く、控えめにおさまるが、その行動はあくまで自由で美しく見え、制約を感じさせない、というのが上品で、そうでないのが下品である。

(定延 2011 : 140)

(14)では「オオー」と雄叫びを上げているが、雄叫びを上げるという行為は日常から離れた機会に見られる(大きな挑戦を前に気合を入れるとき、勝負事に勝ったとき、危険を知らせるとき等)。つまり、定延が言うところの「社会が課す文化的制約から逸脱せず、その中におとなしく、慎み深く、控えめにおさまる」という部分に反することから、《下品》である。とはいえ、「品」は単純に《上品》《下品》と二分されるものではなく、それらは連続的な関係を成していると考ええる。実際、雄叫びを上げるという行為は定延の「その行動はあくまで自由」「制約を感じさせない」という部分には反していない。つまり、雄叫びを上げるという行為は《上品》と《下品》の連続体において、大きく《下品》に寄った行為である。

他の3つの尺度についても観察しよう。「格」は、(14)で「掴め」と命令形を用いていることから、《格上》である。続けて「性」は、(15)において終助詞「ぜ」が用いられていることから、《男》である(渡邊 2016)。「年」

は、(16)で若者言葉「ヤバイ」「マジ」が使われている点、「ギミック」「モーション」と外来語が多用されている点で、《若者》である。

次に示す(17)もまた4つの尺度でキャラクタの観察が可能であるが、同時に発話というよりは内言ともいうべき描写が見られる。

(17) 小鳥たちは 何を騒ぐの 甘い果実が 欲しいのですか 他人 (だれ) かと比較 (くら) べる幸せなんて いない あなたの視線が 愛 (いと) しくあれば…

(秋元順子「愛のままで…」, 花岡優平)

下直線で示した部分では、丁寧な表現が用いられている点で《女》(金水2007)、《上品》である。つまり、4つの尺度で捉えることが可能なため、発話キャラクタである。一方で、波線部で示した部分はそれまでの部分とはスタイルが異なり(常体)、内言のように描写される。

内言と結びつくキャラクタは「思考キャラクタ」という(定延2016)。思考キャラクタは内言の表れであるため、発話キャラクタほど個々の差が出ることはない。したがって(17)は、発話キャラクタと思考キャラクタが混在している例である。これは、ポピュラー音楽の歌詞のことだが、発話としての性質と内言としての性質を併せ持っている可能性を示唆している。

以上に見てきたことから、次の性質VIが認められる。

VI. 発話キャラクタと思考キャラクタが混在しうる。

### 5.3.2 《同等》な発話キャラクタ

「格」について、《格上》と《格下》の中間、すなわち《同等》の人物が描かれる歌詞がある。なお、《同等》は定延(2011)では設けられていない。

(18) 踏みならせ! DAN DAN DANG! 目の前を通り過ぎるだけの日  
を DAN DAN DANG! 変えていけ 想像の「今」へ

(19) 「こんな筈じゃない」 逃げた心を もう一度 あの日の 希望  
の色で満たしてよ

(矢野健太 starring Satoshi Ohno「曇りのち、快晴」, 多田慎也)

(18)で発話者は、「踏みならせ」「変えていけ」と命令形を用いている。一方で同じ発話者が、(19)の「満たして」のように依頼表現も用いている。そのためこの発話者の「格」は、《格上》というほど上ではなく、命令形が用いられている限り《格下》でもない。

定延(2011)は4つの尺度「品」「格」「性」「年」について、具体的な指



定ができないときは「無指定」とすることができると述べている。すなわち、「格」であれば、《格上》か《格下》かを指定できない場合、「無指定」とすることができ。しかし、(18)(19)に見た例は、少なくとも《格上》でも《格下》でもなくその中間である、と指定することができる点で、「無指定」とするのは不適切である。よって、本稿では《格上》と《格下》の中間的な「格」として、《同等》を設け、(18)(19)によって暗示されるキャラクターの「格」は《同等》であると考え。以上より、性質Ⅶが示された。

Ⅶ. 《格上》と《格下》の中間的な「格」、すなわち《同等》の発話キャラクターが見られる。

### 5.3.3 《私たち》タイプ>《異人》タイプ

5.3.1, 5.3.2で観察した発話キャラクターはすべて、現代日本語（共通語）社会の住人であり、いわゆる《私たち》タイプである。一方で、《異人》タイプの発話キャラクターが表れるポピュラー音楽の歌詞もある。

(20) 「忍法 水遁の術！」 勝負でござる 力の限り

(BOYS AND MEN「BOYMEN NINJA」, YUMIKO/福井元気)

(21) もう愛が溢れてしょーがない あんたと生涯を共にしたいねん  
別に何もかもが理想じゃない けどずっと一緒にいたいねん

(RSP「Lifetime Respect—女編—」, dozan)

(20)は「ござる」で《忍者》キャラ、(21)は語尾「ねん」で《関西人》キャラが表されており、《異人》タイプの発話キャラクターの出現例である。

このように、ポピュラー音楽の歌詞において《異人》タイプの発話キャラクターは描かれるが、その数は少なく、ほとんどは《私たち》タイプである。そもそも《異人》タイプは現代日本語（共通語）社会の外の住人であるため、フィクション性が高い場合に表れると考えられる。このことから、ポピュラー音楽の歌詞は、《異人》タイプが比較的多く表れるマンガ、アニメ等<sup>(6)</sup>と比べて、フィクション性が低いと言えるのかもしれない<sup>(7)</sup>。

以上より、次の性質Ⅷが示唆された。

Ⅷ. 《異人》タイプは少なく、ほとんどが《私たち》タイプの発話キャラクターである。

## 6. おわりに—まとめと課題

本稿では、ポピュラー音楽において描かれるキャラクターについて、以下

にまとめた 8 つの性質を指摘した。

I. キャラクタのラベルとして 3 つのパターンがある。

i. 人物に関するラベル

ii. 生物に関するラベル

iii. 生物以外のものに関するラベル

II. ラベルづけは比喻を利用し、キャラクタの性質をより分かりやすい形で表現する機能を有する。

III. 動詞句に限らず、名詞句によっても表現キャラクタが暗示される。

IV. 動作を指示することばの修飾部が表現キャラクタを暗示する。

V. 動作を指示することばがラベルと連動する。

VI. 発話キャラクタと思考キャラクタが混在しうる。

VII. 《格上》と《格下》の中間的な「格」、すなわち《同等》の発話キャラクタが見られる。

VIII. 《異人》タイプは少なく、ほとんどが《私たち》タイプの発話キャラクタである。

ポピュラー音楽の歌詞を対象としたキャラクタの研究はこれまでに十分にされていないが、以上に挙げたように、ポピュラー音楽の歌詞においてもキャラクタとことばの結びつきが観察可能であることが示唆された。特に VI はポピュラー音楽の歌詞に特徴的に表れる性質であると考えられる。今後の課題として、8 つの性質それぞれがポピュラー音楽の歌詞に特有なのかどうかを、他のメディア等と比較し、検討したい<sup>(8)</sup>。

#### 【注】

(1) 本稿における話者とは（作詞家を含む）作者ではなく、作品の中で（作者が用意した）ことばを発する人物を指す。

(2) 歌詞に表れ、内容の理解に影響を及ぼし得る視覚的情報として、歌い手の存在が考えられるが、本稿ではこの点は考慮しない。

(3) 本稿において引用した歌詞情報は、「(アーティスト名「曲名」, 作詞家名)」というふうに示す。また、歌詞の引用における下線はすべて筆者による。

(4) 発話キャラクタは現代日本語（共通語）社会の住人か否かで、《私たち》タイプと《異人》タイプに分けられる（定延 2011）。《私たち》タイプは現代日本語（共通

- 語) 社会の住人であり、「《いい人》キャラクタ」等が該当する。《異人》タイプは「《忍者》キャラクタ」のように、現代日本語(共通語)社会の外の住人である。
- (5) 定延(2011)によると、「品」は《上品》《下品》の2つに大別される。「格」は《別格》《格上》《格下》《ごまめ》の4つに大別される。「性」は《男》《女》の2つに大別される。「年」は《老人》《年輩》《若者》《幼児》の4つに分けられる。
- (6) マンガ、アニメ等に《異人》タイプの発話キャラクタが比較的多く見られる要因の1つとして、登場人物同士の弁別を目的としたキャラクタの特徴付けの必要性が考えられる。一方で歌詞では聞き手に共感を持たせる目的もあり、《異人》タイプほどの異質なキャラクタを描く必要性が低いと思われる。
- (7) 《異人》タイプが少ないことが歌詞の中でもポピュラー音楽に特徴的な性質であるのか、それともポピュラー音楽以外にも共通する性質なのかは、検討の余地がある。例えば童謡では、《異人》タイプである動物キャラクタの発話において、役割語が用いられず、動物の鳴き声をそのままオノマトペで、第三者視点で捉えているような歌詞が見られる。

にゃんにゃん にゃにゃん にゃんにゃん にゃにゃん ないてばかりいる こね  
こちゃん いぬのおまわりさん こまってしまうて わんわん わわん わんわん  
わわん

(童謡「犬の「おまわりさん」, 佐藤義美)

- (8) その他、本研究の応用先として、国語科教育におけるコミュニケーション教育が挙げられる。根本(2017)によると、コミュニケーション能力の高さが重要視される現代社会において、若者はコミュニケーションへの不安をなくすために、コミュニティの中で割り当てられた「キャラ」に沿った行為を心掛ける「キャラ化」を利用している。「キャラ」は割り当てられたものであるため、他者による否定への緩衝材になるという点で、自己防衛策として有効であるという。この実態を受け根本は、若者が抱えるコミュニケーションへの不安を解消するための視点として、「キャラ」を国語科のコミュニケーション教育に取り入れることを提案している。

#### 【参考文献】

- 秋月高太郎(2014)「脇役男子の言語学ースネ夫やジャイアンはどのように話すのかー」『尚絅学院大学紀要』67, 尚絅学院大学, pp. 41-54.
- 河野礼実(2016)「「おネエキャラ」の言語表現についてーバラエティ番組とフィクション作品を材料にー」金水敏編『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ



『2015 報告論集』, 私家版, pp. 151-164.

金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語：役割語の謎』, 岩波書店.

金水敏 (2007) 「近代日本マンガの言語」 金水敏編『役割語研究の地平』, くろしお出版, pp. 97-107.

定延利之 (2007) 「キャラ助詞が現れる環境」 金水敏編『役割語研究の地平』, くろしお出版, pp. 27-48.

定延利之 (2011) 『日本語社会のぞきキャラくり：顔つき・カラダつき・ことばつき』, 三省堂.

定延利之 (2016) 「内言の役割語ーことばとキャラクターの新たな関わりー」 金水敏編『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ 2015 報告論集』, 私家版, pp. 14-31.

定延利之編 (2018) 『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』, 三省堂.

定延利之・張麗奈 (2007) 「日本語・中国語におけるキャラ語尾の観察」 彭飛編『日中対照言語学研究論文集ー中国語からみた日本語の特徴, 日本語からみた中国語の特徴ー』, 和泉書院, pp. 99-119.

根本大暉 (2017) 「国語科教育におけるコミュニケーション教育についての提案ー自己防衛策としての「キャラ」の活用ー」『横浜国大国語教育研究』42, 横浜国立大学国語教育研究会, pp. 21-30.

渡邊友香 (2016) 「小説に見られる女性キャラクターの会話スタイルの変化ー女性的表現は今後衰退するのかー」 金水敏編『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ 2015 報告論集』, 私家版, pp. 118-128.

Dodd, Hannah E. (2016) 「「ぼく」の世界, 「わたし」の世界ーポップ音楽における日本人女性歌手のアイデンティティ流動性ー」 金水敏編『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ 2015 報告論集』, 私家版, pp. 165-176.

(にしざわ もえき 名古屋大学人文学研究科)